

第2回吉川地域小中一貫校開校準備委員会 議事録（要旨）

日時： 令和8年5月25日(月) 午後7時～午後8時30分
場所： 吉川町公民館 研修室
出席者： 石田 正治 吉川地区区長協議会
大垣 一弥 吉川地区区長協議会
石田 英之 吉川地区区長協議会
森崎 和典 吉川地区区長協議会
森下 顕 吉川町まちづくり協議会
谷郷 祐次 吉川町まちづくり協議会
安井 由次 吉川町まちづくり協議会
北住 義昭 吉川町まちづくり協議会
荒田 のり子 よかわ認定こども園
谷石 智美 よかわ認定こども園
滝本 志保 よかわ認定こども園
高郷 理加 よかわ認定こども園
大橋 晴美 吉川小学校 PTA
坂口 ひとみ 吉川小学校 PTA
土田 博 吉川中学校 PTA
福田 亮 元地域協議会委員
富田 佳泰 吉川小学校 校長
宮脇 久典 吉川小学校 教頭
坂本 伸明 吉川中学校 教頭
欠席者： 今村 大介 吉川中学校 PTA
杉原 千二三 吉川小・中学校学校運営協議会
藤本 理恵 元地域協議会委員
蓬萊 知子 吉川中学校 校長
事務局： 森田眞規教育総務部長、山口正明教育振興部長、
仲谷淳小中一貫教育推進室長、林和己小中一貫教育推進室主査、
丸岡晃一小中一貫教育推進室主査

傍聴人の数： 2名

議題

- (1) 所属部会の検討について

報告

- (1) 各部会の進め方と委員構成
- (2) 今後の予定
- (3) ワークショップの結果報告
- (4) 先進校の視察共有（現地写真による事例紹介）

(事務局司会)

ただいまから第2回吉川地域小中一貫校開校準備委員会を開会する。

(委員長)

5月に例年以上に早く夏日が到来する中、仕事や田植えの準備、子育ての合間を縫って会議に集まっていただき誠に感謝する。

それでは次第に沿って進める。次第の2番、組織づくりの新たな委員の委嘱等について事務局から説明をお願いします。

〈新委員の自己紹介〉

(委員長)

続いて次第の3番、事務局説明に移る。各部会の進め方と委員構成、今後の予定、ワークショップの結果報告、先進校の視察共有について事務局から説明をお願いします。

〈事務局説明〉

(事務局)

事務局説明について質問はあるか。

(副委員長)

他の部会に参加したい場合は傍聴するだけで、傍聴席での発言はできないということか。

(事務局)

傍聴席での発言はできない。もし何か意見や質問がある場合は、その部会に所属している部会員を通じて伝えてもらうことも可能である。

(委員)

事例にあった派出所の隣接について、現在の吉川中学校前にある派出所を、中学校がなくなるタイミングで新しい小中一貫校の近くへ移転することは可能か。理想的な配置であると考えてる。

(事務局)

警察側の考えや費用のハードルがあるため現時点では想定していなかったが、過去の統合時の経緯などを踏まえつつ、実現の可否は別として、一度警察への確認を行う。

(委員)

路線バス(神姫バス)がない地域において、一般の方が自家用車以外でアクセスできるように路線バスを敷地近くに引き込むことは難しいか。

（事務局）

事例の川東学園はメイン道路の道中に元々派出所やバス停留所があり一体利用していたケースと考えられる。新校の予定地（現在の吉川高校跡地）の近くに新たに路線バスのルートを持つてくることは、神姫バスとの協議も含めハードルが高いと感じている。ただし、新校では十分な広さの駐車場を多く確保できる条件があるほか、複数のスクールバス運行を想定しているため、それらの兼ね合いを考慮する。

（委員）

最近ではプールに入る機会自体が減っており、民間のスイミングスクール等を利用する学校も多いが、小中一貫校におけるプール施設はどうなっていくのか。

（事務局）

近隣の加東市などは自前でプールを建設しているが、加古川市などのように民間の施設を活用する自治体も増えてきている。これは施設の老朽化対策だけでなく、近年の猛暑によって「暑すぎて屋外プールに入れない」という日が増えていることが背景にある。近隣に民間施設があれば、天候や暑さに関係なく水泳授業が行えるメリットがあるため、全国的な動向も含めて今後検討していきたいと考えている。

（委員）

アフタースクールは新校の敷地内に設置されるか。現在の吉川小学校では、16時前と16時以降で保護者の迎えの場所が異なり、駐車場に入る際のインターホンを押すために細い住宅街の坂道に車を止めなければならず、非常に危険を感じている。また、子どもがお迎えで喜んで飛び出すなど、安全に歩ける通路がない。新校では親が安全に、気を遣わずに送迎できる環境に力を入れてほしい。

（事務局）

アフタースクールは新校の敷地内で確保する予定である。現在の吉川小学校は根本的に土地が狭く、グラウンドの一部を舗装するなどして何とかやりくりしているため限界がある。新しい予定地の敷地は広大なため、保護者が近寄りやすく、安全に送迎できるレイアウトや、広さを活かした安全な環境づくりを今後の施設整備部会等で具体的に考えていく。是非また意見をいただきたい。

（委員）

事例の写真にあった柵で区切られたような教室（オープンスペース）のメリットは何か。周囲の教員からは「ただ単にオープンが良いというわけではない（デメリットもある）」と聞くため、気になっている。

（事務局）

市内では緑が丘小学校などが広めのオープンスペースを採用している。メリットは、空間にゆとりがあるため、のびのびと活動でき、広い廊下を活用して並んだり学習を行ったりできる点にある。一方で、間仕切りがないために隣の教室の声や音が聞こえて集中を欠いてしまうというデメリットもある。そのため、最新の学校のトレンドと

しては、単にオープンにするのではなく、必要に応じて「開け閉めが自由にできる（オープンにもクローズにもなる）」状態を確保した上で、広い活動スペースを両立させる形が主流となっている。

（委員長）

それでは閉会にあたり、富田副委員長から挨拶をお願いします。

（副委員長）

6年前の吉川小学校の統合の際、私はみなぎ台小学校に教頭としており、地域や保護者の方々が知恵を絞ってスタートさせた苦労を思い出す。吉川小学校は元々統合ありきで建てられた建物ではなかったため、統合後に大変な工夫を重ねる必要があった。しかし今回は、最初から『これがいい』という意見を出し合って小中一貫校の建物を建てることのできるため、非常に素晴らしい学校ができると楽しみにしている。現在、小・中学校も一貫教育の実践推進校として中身の準備をどんどん進めており、いよいよそれをこの委員会で具体化していく段階に入った。これからも地域の方々の力を借りながら、良い学校を作っていきたいと考えている。